

令和元年度学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員会開催概要

【日 時】 : 令和元年 07 月 12 日 (金) 11:00-12:00

【場 所】 : 日産横浜自動車大学校 会議室

【参加者】 : <評価委員> 団体代表 田中規内様 (一社)神奈川自動車整備振興会 専務理事
企業代表 齋藤昭男様 中央日産株式会社 サービス技術支援部 部長
卒業生代表 岡本周子様 神奈川日産自動車株式会社 サービス部 課長

<学校事務局> 学 校 長 石 井
教 頭 古畑 (教育部長兼務)
学務部長 長島
自動車整備科課長 玉生
学務部課長 武田

2. 議事

1) 校長挨拶

2) 前回会議の指摘事項の振り返り

【基準 7: 学生の募集と受入】

■7-3-2 評価 2 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか。

3) FY18 自己評価と意見交換

■新たな教員の採用源について

■日産横浜校の強みについて

1) 校長挨拶

・会議参集の御礼。なかなか学校の中だけでは改善が進まないの、外部からの目で見えていただく1年に1回の貴重な場であるので、忌憚の無いご意見やアドバイスをいただきたい。

2) 前回会議の指摘事項の振り返り

【基準 7: 学生の募集と受け入れ】

■7-3-2 評価 2 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか。

・前回いただいたご意見

卒業生にアンケートを取ったり、インタビューしても良いのではないかと。

⇒具体的な活動ができておらず、引き続き具体的に検討を進める。

学校として30周年を機に幅広く卒業生の情報を集めて活用する。

⇒イベントを実施することで数は少ないが卒業生の情報取得(アドレス等)ができ、交流もできた。イベントの継続と卒業生情報の活用を具体的に検討したい。

学校: イベントには 1 期の方も来てくれたが、最近の卒業生が多かった。土曜日に実施したのでメーカー系企業への就職者が中心であり、販売会社の方はなかなか来ることができない設定だったと感じている。最大規模の販売会社就職者が参加できればイベントは更に盛り上がったと思う。

中退した人から行ってもいいかという連絡もあり、ホームページでの告知だけではうまくいかなかったかもしれない。得られた情報をどう結び付けていくかは課題。卒業後に学校と何も接点が無いのは寂しいという卒業生の声も聞く。学校として卒業生情報を集める為のアイテムとしてもホームカミングデーを継続していく。

齋藤委員: 学校を卒業した後のモデルケース、例えば、工場長や店長クラスになっている人を取り上げたらどうか。

岡本委員: 同世代には工場長クラスもポツポツいる。

学校: 学校としても、情報を頂きたい。販売会社の中でキャリアアップしている人。そういう方々を取り上げたい。

将来のキャリアイメージとして、保護者には工場長とかの方が響くと思う。

また、GT-R の認定メカニックはどれくらいいるか。

岡本委員: 神奈川日産では 20 名くらい。配属されてその店が認定店でないと。該当 4 店舗では 1 名から 2 名。

学校: 認定メカニックは誇りを持ってやっていると思われている。

岡本委員: そこは確かにそう。

学校: やっている方はオーラがある。自分は GT-R 認定メカニックだという雰囲気がある。

学校: サービス技術大会では日産校の卒業生が出ている率が高い(ほぼ 4 割くらい)。例えば、工場長で、神奈川の販売会社の工場長は卒業生が〇%とか言うことが出来ないか。

岡本委員: 入社してくるのは必然的に日産校の卒業生が大半。年齢で区切ればそういう傾向は出る。

齋藤委員: 事実として 60 店舗中 30 人くらいは工場長をやっている。

岡本委員: 保護者にはインパクトがあるかもしれない。

齋藤委員: TS リーダー(メカ長/テクマネ)だと、ほとんどが日産校の卒業生になる。

整備の腕もマネジメントも現場のリーダーであり、卒業(入社)して 10 年経つとそういう職に就いていると伝えることができる。

学校: メカ長と TS リーダーは同じポストか? 言い方が変わるとイメージが伝わりにくい。

齋藤委員: 統一するとすれば、TS コントローラーが無難か。

学校: 名前は一本で PR した方が良い。

岡本委員: 現場の長としての言葉のニュアンスが入ってこない。

齋藤委員: 以前に検討した時、チーフメカニックという言葉は採用されなかった。

岡本委員: 現場に合わせる形で良いのでは。

田中委員: 31 周年のイベントはやるのか。

学校: ホームカミングデーとして、毎年やっていくことに決めた。

齋藤委員: 販売会社に話が来ていないので、販売会社に話をしてほしい。そうでないと参加しにくい。

岡本委員: 特に現場では、上位者から話が降りてこないと行きにくい。

3) FY18 自己評価と意見交換

- 新たな教員の採用源について、ご意見を伺いたい。

齋藤委員:もっと学校が努力しないといけないと感じる。販売会社からの選抜するやり方には無理がある。

岡本委員:特に30代は販売会社でも一番薄い層。一概に否定/拒むことは無いが、バリバリの30代で出向する場合はお互いの為にといいところもある。引き続き双方で調整していくしかない。可能な限り協力はするし、若い人の成長のためとして考えたい。

学校:そもそも、販売会社への人財供給側である学校としては苦しいお願いとなっている。

齋藤委員:しかるべきタイミングで定期的にローテーションするなど、方法を考えないといけない。

学校:販売会社以外の学校独自の教員採用は12名中4名のみ。販売会社に若手を要求するのは都合の良い要望であることは承知している。

田中委員:世間には教育をやってみたいという人が結構いるのではないかと。神奈川の整備振興会でも講師を雇っているが、整備学校からの紹介で募集した。

学校:講師は整備学校の人ですか？

田中委員:整備学校を卒業して就職して辞めて、先生をやりたいという30代の若い方。結構教えたい人はいるのではないかと。

学校:求人はどうしているのか。

田中委員:ハローワークに求人を出している。人が集まらない場合には求人サイトに求人を出している。結構年配の人もあるが、数は少ない。

学校:学校もマイナビに求人を出したが、半年で5名くらい。申し込んできた人は40代後半から50代後半の方。

田中委員:求人を出すとお金もかかる。学校から他の整備学校の卒業生に声をかけることもやってみては？

学校:他の整備学校卒業の教員や元トヨタ校、ホンダ校の教員も実際にいるが、極めて獲得が難しい。

田中委員:学校の卒業生で、そのまま学校に残って先生をやりたいというのは出来ないのか。

学校:愛知校で昨年初めて、卒業生がそのまま教員になったケースがある。横浜校卒で愛知校の先生もいる。

田中委員:かなり前だが、整備振興会に横浜校を卒業した人を2名採用している。

齋藤委員:そもそも、もっと日産がブランド力を持たないといけない。日産の先生をやりたいと思わせないといけない。また、教員のセカンドキャリアとして、60歳以上は留学生の指導にあたる等、振り分けてみてはどうか。

学校:60歳以上でも通常の学級担任をやってもらっているのが現状。

齋藤委員:販売会社から補充するなら、例えば2年毎にローテーションを組んで、自分のスキルUPの為に教えることを経験するようなキャリア研修制度という形を作らないといけない。

学校:学校から販売会社に戻った人のキャリア上のメリットは。

齋藤委員:社内教育とか。(研修で人を教える)

学校:販売会社より日産に近いところでブランドを学ぶ機会にもなるか。

3)FY18 自己評価と意見交換

- 日産横浜校の強みについて学校側が見落としているものはないか、ご意見を伺いたい。

岡本委員:日産のグローバル本社に近い。日産というブランドもある。

齋藤委員:最近の学生はデスクワークを好む傾向があり、開発職への道が開かれていることも強みのひとつ。

日産発祥の地に学校を構えていることや、日産DNAのイメージビデオはどうか。

岡本委員:神奈川日産では社員が週に1本くらいのペースでYouTubeに自社の宣伝動画をアップしている。

岡本委員：販売会社のチラシの一部を使って学校の宣伝をするのはどうか。エリア限定や、全基盤向けにチラシを活用できるのではないか。

学校：今後検討させて欲しい。

以上